

Title	「D.S. Brewer 旧蔵神話学コレクション展」解題目録
Sub Title	An exhibition catalogue of D.S. Brewer Mythography collection
Author	徳永, 聡子(Tokunaga, Satoko) 松田, 隆美(Matsuda, Takami) 高宮, 利行(Takamiya, Toshiyuki) 小川, 真理(Ogawa, Mari) 菅野, 磨美(Kanno, Mami)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2010
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. 英語英米文学 (The Hiyoshi review of English studies). No.56 (2010. ) ,p.27- 47
JaLC DOI	
Abstract	This paper is a reprint of the catalogue prepared for the exhibition 'D. S. Brewer Mythography Collection', held at the Hiyoshi Media Centre from 24–28 November 2009 on the occasion of the 25th congress of the Japan Society for Medieval English Studies. In the spring of 2009 Toshiyuki Takamiya, Professor Emeritus at Keio University, donated the D. S. Brewer Mythography Collection to the Keio University Library. This collection was formed by the late Derek Stanley Brewer (1923–2008), a leading expert on Geoffrey Chaucer, the founder of academic publisher D. S. Brewer (now Boydell Brewer); Brewer also served as Master of the Emmanuel College from 1977–1990. The Mythography Collection comprises 190 items, including 16th–20th-century books mostly on Greek mythology and Brewer's typescripts of lectures, research notes and slides. Scholars and students from the Department of English examined the whole collection and recorded it bibliographically during the summer of 2009. On the basis of their research results, 10 representative items were chosen and displayed at the exhibition. They include Boccaccio's <i>Genealogie</i> (Paris, 1511); Psd-Apollodorus's <i>Bibliotheca</i> (Rome, 1555); Vincenzo Cartari's <i>Les images de dieux des anciens</i> (Lyons, 1581); Natalis Conti's <i>Mythologiae</i> (Padua, 1616); Alexander Ross's <i>Mystagogus poeticus</i> (London, 1648); Lactantius's <i>Divinarum institutionum libri VII</i> (Antwerp, 1570); Gerardus Vossius's <i>De theologia gentili...</i> (Amsterdam, 1668); Thomas Munckerus's (ed.) <i>Mythographi latini</i> (Amsterdam, 1681); Francesco Bardi's <i>Ovidio istorico, politico, morale</i> (Venice, 1696); and D. S. Brewer's typescript.
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10030060-20100331-0027">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10030060-20100331-0027</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 「D.S. Brewer 旧蔵神話学 コレクション展」解題目録<sup>1)</sup>

徳永聡子・松田隆美・高宮利行・  
小川真理・菅野磨美

## 序

Derek Brewer Mythography Collection は、故 Derek Brewer 教授（1923-2008）旧蔵の全 190 点からなる神話学関係の蔵書で、生前の 2007 年にコレクションとして売りに出されたものを慶應義塾大学名誉教授高宮利行氏が購入し、慶應義塾図書館に寄贈されたものである。

コレクションは 16 世紀から 20 世紀にかけて刊行された神話学関連の図書と、いくつかのフォルダに収められた Brewer 教授の講演原稿、研究メモ、スライド、抜き刷りなどの ephemera 類からなる。図書としては、ボッカチオの『異教の神々の系譜』の 1511 年版を皮切りに、アポロドーロス、ラクタンティウス、オウィディウスなどの古代・中世の神話書の 16-17 世紀の校訂版、16 世紀後半にイタリア語で刊行されたジリオ・グレゴリオ・ジラルディ、ナターレ・コンティ、ヴィンチェンツォ・カルターリなどの神話事典の諸版、さらには Pierre Gautruche や Jiullard W. Hort 等による 18-19 世紀の初学者向けの神話入門書などが含まれている。特筆すべきは同一書がしばしば複数の版で収蔵されている点で、たとえばヴィンチェンツォ・カルターリは 16-17 世紀に刊行されたイタリア語、フランス語、ラテン語の 3 つの版が、オウィディウスの『変身物語』は

17-18 世紀の 3 つの英訳版がある。Brewer 教授が近代における古代神話の受容を校訂版、事典、研究書、教育書によって遺漏なく跡づけようとしていただけでなく、各版の異同にも書誌学的な関心を寄せていたことがわかる。さらにコレクションには 80 点弱の 20 世紀の研究書類が含まれている。それらは、Garland 社から刊行された 16-17 世紀刊本のファクシミリ・リプリント叢書 ‘Renaissance and the Gods’ をはじめ、チャーサー、中世英文学関連の研究書が中心である。これらの図書が長期にわたって蒐集されたものであることは、蔵書に残された日付け入りの署名が 1953 年にまで遡ることから明らかである。

2009 年 7-8 月に慶應義塾大学大学院文学研究科英米文学専攻の大学院生が中心となって、慶應義塾大学三田メディアセンター（慶應義塾図書館）の協力のもと、全 190 点のコレクションの詳細なリストを作成した。現在は公開に向けて慶應義塾図書館による整理が進んでいるが、日本中世英語英文学会第 25 回大会が慶應義塾大学日吉キャンパスで開催されるにあたって、コレクションから 16-17 世紀の刊本を中心に 10 点を選び展示することとした。本展示の実現のために協力を惜しまれなかった慶應義塾図書館の石黒敦子、松本和子、梁瀬三千代、日吉メディアセンターの長島敏樹の各氏に謝意を表したい。（松田隆美）

\*\*\*\*\*

### Derek Brewer 教授（1923-2008）について

20 世紀最大の Chaucer 学者、Emmanuel College Cambridge の学長、そして Brewer 出版社の創業者として知られた Derek Stanley Brewer 教授（DSB）は、1923 年 General Electric に勤める父のもとで Cardiff に生まれた。Douglas（後に Sussex 大学物理学教授）とともに、大学にまで進学した Brewer 家最初の兄弟だった。その後家族は Gloucester に移り住み、DSB は同地の Crypt Grammar School に進学、教員や上級生の訛りのな

い英語に影響されてBBC英語を体得した。奨学金を得てMagdalen College Oxfordに進学したが、1942年から歩兵将校としてイタリア戦線に参加した。このときイタリア語を習得したDSBは、しばらくすると毎年夏をトスカナ地方の別荘で過ごすようになった。

戦後Magdalen Collegeに復学したDSBは、C.S. LewisとJ.A.W. Bennettに師事、J.R.R. Tolkienの講義にも出席した。1949年Birmingham大学に英文学講師として赴任、英語学的な分析が多かった中世英文学研究にChaucerの詩人や物語作家としての観点を導入した。DSBのChaucer関係の著作はOxfordで学んだ厳格な本文校訂法による*The Parliament of Fowls* (1960)から、*Chaucer and his World* (1978)や*A New Introduction to Chaucer* (1998)に至る文学的な解釈まで多岐に渡る。DSBの学問への情熱は死の直前まで持続し、その間に出版した論文は170本に及ぶ。New Chaucer Societyの会長も務めた。

大学での教え子Elisabethと結婚したDSBは、1956年に家族とともに来日、国際基督教大学(ICU)で2年間教鞭をとると同時に、東大でも講師を務めた。後者で教えていた詩人Anthony Thwaiteとは生涯の友となった。学会活動では榊井迪夫、厨川文夫、寺澤芳雄、安東伸介といった中世英文学者と親交を結んだ。東大退官後ICUに移った齋藤勇教授の紹介もあって、戦後しばらく英米諸国から直接情報を得ることができなかった日本の学界に、DSBは新風を吹き込んだ。Birminghamに戻り1964年にCambridgeに移ったDSBのもとには、多くの日本人研究者が集まった。またDSB自身もその後数度にわたって日本を訪れて講演旅行を行った。こうした功績に対して、日本学士院は名誉会員の称号を与え、慶應義塾大学は他大学に先駆けて名誉博士号を授与した。

東京を去る直前にDSBはICUなどでの講義録を基に*Proteus: Studies in English Literature* (研究社、1958:2009年に再版)を出版した。英国の図書館に3部しか所蔵されていない本書には、英文学史全般にわたる深い読書体験が反映しているが、その冒頭は「古書を読むこと、外国の書

を読むこと、外国に住むことはよく似た経験だ」で始まる。また序文が ‘As a small token of the appreciation which I and my family have felt, any royalties this book may earn will be paid into a scholarship fund for Japanese students in need of financial help’ で結ばれているのは感動的である。実際、Emmanuel College には Derek Brewer 奨学生の制度も設けられている。

公共への奉仕精神に富む DSB は Cambridge で合計 140 もの委員会のメンバーとして名を連ね、また議長職も多くこなした。1977 年に Emmanuel College の Master に選出されて、1990 年に引退するまでの 13 年間、DSB は Cambridge の Colleges の長として初めて募金活動を展開し、1979 年以降は女子学生を受け入れた。

博士論文完成後さまざまな理由で大学出版局でも出版できなかった若手研究者の著作を世に出すべく、DSB は 1972 年に D.S. Brewer Ltd を設立した。‘Cottage industry’ と陰口を叩かれて始まったこの出版事業も、1978 年に Boydell & Brewer Ltd として展開するに及んで急成長を遂げ、同社と関わりのない現在一流の中世英文学者を探すのが難しいほどである。DSB は 1970 年代後半から Chaucer 写本のファクシミリ化に情熱を注いだが、その嚆矢となった *Troilus and Criseyde* (Corpus Christi College Cambridge, MS 61) は、日本からの個人予約が 78 部に上った。なお、1974 年にわが国で発刊された英文雑誌 *Poetica* に、DSB は最初から編集顧問として参加し、論文も寄稿した。

DSB が優れた詩人であったことはあまり知られていない。限定版として出版された *Seatonian Exercises and Other Verses* (2000) には、アーサー王関係の詩も含まれている。終生敬虔な国教徒だった DSB は、College Master として日曜日のサービスで優れた説教を行った。BBC で放送された中英語による *Morte Dathur* の朗読では、研ぎ澄まされた言語感覚で俳優たちをコーチした。

テレビや映画に関心を持たなかった DSB だったが、すでに Birmingham

時代から本文と図像の関係に多大の興味を示していたことは、同僚だった Eric Stanley 教授の証言がある。DSB は Mythography, とりわけ Venus の図像解釈については、ルネサンス以来の古書コレクションを構築し、これを基にして Cambridge 大学の Sandars 記念講座で講演した。この Mythography 関係蔵書は最近慶應義塾大学に収蔵されたが、その中には各種のメモから古書目録の破片にいたるまで、さまざまな Ephemera が含まれており、多忙な生活の中でも研究を続けた生前の DSB の姿を彷彿とさせる。

DSB は 3 人の息子, 2 人の娘に恵まれた。愛妻 Elisabeth は夫を支え, 子供を養育する傍ら, 中世主義とアーサー王伝説の研究者としても, 教育者としても活躍した。Elisabeth 夫人が急逝して 5 週間後の 2008 年 10 月 23 日, Derek Brewer 教授は 85 歳で世を去った。

(本稿は『英語青年』2009 年 3 月号所収の小伝に加筆修正を加えたものである。)

(高宮利行)

\*\*\*\*\*

## 解題目録<sup>2)</sup>

### 1. ボッカチオ『異教の神々の系譜』(パリ, 1511 年)

Boccaccio, Giovanni. *Genealogie* (Paris, 1511).

[in black and red] Genealogie Johannis Boccacij cum | micantissimis arborum effigiacionibus cuiusque gentilis dei proge | niem / non tam aperte quam summatim declarantibus Cumque | praefoecunda omnium quae in hoc libro sunt ad finem tabu | la. Eiusdemque de montibus & siluis de fontibus lacubus | & fluminibus Ac etiam de stagnis & paludibus | nec non & de maribus seu diuersis | maris nominibus libri luculentissi | m<i> omnibus denique huma | narum litterarum. | Sectarioribus oppido quam necessarij

Parrhisiis quoque studio perquam vigili | accuratissime que impressi  
 Nunquam que antea citra alpes notulis | stanneis diuulgati visenda denique  
 casti | gatione conspicui. | [printer's device] | ¶ Prostant in vico Diui Iacobi  
 sub intersignijs trius co | ronarum coloniensem atque Diui Maroni.

*Coll:* Folio: a<sup>4</sup> b-t<sup>8</sup> v<sup>10</sup> [\$4 (-a4; +v5) signed], 158 leaves, ff. v-CLXII  
 [misprinting XXXVI as XXVI, XXXVII as XXVII, XL as XXX, LXXIII  
 as LXXIII, LXXXX as LXXXIX, LXXXXV as LXXXIXV]. 350mm ×  
 94mm. Cont. vellum.

ボッカチオの『異教の神々の系譜』(*Genealogia deorum gentilium*) は古代ギリシャ・ローマ神話の神々の系譜を幅広くまとめた作者晩年の作品で、神話の参考図書として各国で写本・印刷本ともに版を重ね、フランスやイタリアでは自国語への翻訳も行われた。ボッカチオの古典文学に対する深い学識、人文主義が反映された著作といえる。展示品はラテン語の印刷本で、1511年にパリで印行されたフォリオ版である。13枚の系図が含まれ、円の連なりや枝葉のデザインで神々の系図が示されている。エッサイからキリストまでの系図を描いたエッサイの樹や血族関係を示した家系図 *arbor iuris* のレイアウトを汲む図表を用いて、ボッカチオは異教の神々の系譜を示した。本作品はリドゲイト、キャクストンらに利用され、スペンサーも参照した可能性がある。ことにデモゴルゴンを古代神話原初の神としたことはスペンサーら後世の著述に影響を与えた。また、本作末尾には詩を称揚し擁護する二書が含まれている。展示品にはフォリオ番号をはじめ誤植も多く、Brewer教授が‘This edition is very carelessly printed full of misprints (NB Venus comes with Jupiter in XI etc as well as elsewhere)’と書いたメモが挟み込まれている。余白には古い書き込みがある。

(小川真理)

## 2. (偽) アポロドーロス 『ギリシャ神話』 (ローマ, 1555 年)

Pseudo-Apollodorus. *Bibliotheca* (Rome, 1555).

APOLLODORI ATHENIENSIS | BIBLIOTHECES, | *sive de Deorum  
origine, tam græcè, quàm latinè, | luculentis pariter, ac doctis  
annotationibus illu= | strati, & nunc primum in lucem | editi libri tres. |*  
BENEDICTO ÆGIO SPOLETINO | INTERPRETE, | *Accessit etiam  
libris hisce nominum, rerumque | opulentissimus index. | Quibus  
demum additus est Scipionis Tetti viri | apprime docti de Apollodoris |*  
AD OTHONEM TRVCSIVM | *Cardinalem amplissimum com= |*  
*mentarius | [orn.] | ROMÆ IN ÆDIBVS ANTONI BLADI, | PONTIF.  
MAX. EXCVSORIS | DE CAMPO FLORÆ. | M. D. LV.*

*Coll:* 8vo: A<sup>4</sup> \*<sup>8</sup> 2\*<sup>4</sup>, a-y<sup>8</sup> z<sup>4</sup>, <sup>2</sup>\*<sup>8</sup> 2\*<sup>8</sup> 3\*<sup>8</sup> [\$4 (-2\*3, 2\*4, z3, z4) signed;  
misprinting A3 as A2, z2 as z], 220 leaves, ff. [16] 1-138 [66] [misprinting  
12 as 32, 107 as 017, 122 as 121, 124 as 123, 126 as 125, 128 as 127, 129  
as 1\*9]. 159×105mm. Later calf.

ギリシャ神話や英雄伝に登場する人物の系譜と生涯をまとめた本書は、コンスタンチノーブル総主教 Photius I (c. 820-91) 以降、神話学の重要な百科全書的著作と称されてきた。著者は、『年代記』や『神論』などの作者として知られる、アテーナイのアポロドーロス (fl. 140 B. C.) と考えられていたが、アポロドーロスより後代の著述からの引用などが認められることから、現在では偽アポロドーロス作とする説が有力のようである。作品を完全な形で伝える写本は現存しないものの、ギリシャ正教大司教ヨハンネス・ベッサリオン (1403-72) のために作られた 15 世紀の写本などがある (オクスフォード大学ボドリアン図書館所蔵)。

Brewer 旧蔵書は、ローマの Antonius Bladus が 1555 年に刊行した、活

版印刷術による初版 (*Editio princeps*) である。標題が伝えるように、この版の編纂はスポレートの本edictus Aegius (Benedetto Egio) が手がけた。彼は全体を3部に分け、ラテン語訳と注釈を付した。しかし、その本文には不正確な箇所も散見されたため、4年後にはHieronimus Commelinusによる改訂版がハイデルベルクで出版されている。なお現代版にはJ.G. Frazerによる校訂版(1967)などがある。展示書には、印刷期と同時代と思われる筆跡の署名や‘Ovid M. L. 6’といった書き込みが数カ所にみられる。(徳永聡子)

3. ヴィンチェンツォ・カルターリ『古代の神々の像』(リヨン, 1581年)  
Cartari, Vincenzo. *Les images des dieux des anciens* (Lyons, 1581).

LES IMAGES | DES DIEUX DES | ANCIENS, CONTENANS | LES  
IDOLES, COVSTVMES, | ceremonies & autres choses ap- | partenans à la  
Religion | des payens. | *Recueillies premierement & exposees en Italien par*  
*le Seigneur Vincent Cartari | de Rhege, & maintenant traduites en François*  
*& augmentées par | ANTOINE DV VÉRDIER, Seigneur de Vaupriuas, | Conseiller*  
*du Roy, controlleur general de ses finan-* | *ces en la charge & generalité de*  
*Lyon.* | Auec deux Tables, l'vne des lieux & marieres plus notables, | & l'  
autre des pourtraicts contenus en ce liure. | [printer's device] | *À LYON,* |  
PAR ESTIENNE MICHEL | [rule] | M.D.LXXXI. | *Auec Priuilege du Roy.*

*Coll:* 4to:  $a^4 \beta^4$ ; A-Z<sup>4</sup>; 2A-2Z<sup>4</sup>; 3A-3Z<sup>4</sup>; 4A-4P<sup>4</sup> 4Q<sup>2</sup> [\$3 (-4L3) signed],  
346 leaves, pp. [8], 1-637 [638-76]. 221mm × 175mm. Cont. limp vellum.

ヴィンチェンツォ・カルターリ(1531?-1569)は、レッジョ・エミリアの出身で、生涯フェラーラのエステ公に仕え外交官としても活躍したが、その生涯についてはあまり詳しいことはわかっていない。『古代の

神々の像』はルネサンス期に編纂された神話事典のなかでもっとも広く流通したもので、初版は図版無しで1556年にヴェネチアで刊行された。図版は1571年の第3版に初めて登場する。展示書はフランス語版だが、他にラテン語版、ドイツ語版、英語による縮約版も刊行されている。本書の他にも、オウィディウスの『祭暦』の注解など、古典関連の著作が複数ある。本書は、しばしばポッカッチオやアルブリクスを利用しつつ、ギリシャ・ローマ、オリエントの神々を網羅的に解説しており、特にそのイコノグラフィーについて、具体的なアトリビュートを挙げながら詳述している。そのような内容故に、ルネサンス芸術における神話学研究的の古典、Jean Seznec, *La Survivance des dieux antiques* (1940) —本書の英訳は本コレクションに含まれている—で紹介されているように、本書は16-17世紀の画家、建築家、装飾デザイナーなどにマニュアルとして用いられ、物語画、寓意画、タペストリーの下絵、宮殿装飾、さらに祝祭や凱旋式をなどのスペクタクルに図像を提供した。また、ロバート・バートンやトマス・ブラウンのような17世紀イギリスの該博な散文作家にも古典神話の権威として高く評価されていた。チェーザレ・リーパの『イコノロジーア』と並んで、近代初期のもっとも重要な図像事典である。 (松田隆美)

#### 4. ナターレ・コンティ 『神話学』 (パドヴァ, 1616年)

Conti, Natalis. *Mythologiae* (Padua, 1616).

[in black and red] NATALIS COMITIS | MYTHOLOGIAE | SIVE  
EXPLICATIONIS FABVLARVM | LIBRI DECEM, | IN QVIBVS OMNIA  
PROPE NATVRALIS ET | Moralis philosophiæ dogmata in veterum fabulis  
contenta fuisse | perspicuè demonstratur: | *Opus cuiusuis facultatis studiosis*  
*perutile ac propè necessarium.* | ACCESSIT G. LINOCERII MVSARVM  
MYTHOLOGIA. | & anonymi obseruationum in totam de dijs gentium  
narrationem LIBELLVS. | *Adiectæ sunt insuper nouissimæ huic, post*

*Germanicam & Gallicam, editioni | elegantissimæ Deorum imagines, & eruditissimæ mythologie | M. Antonij Tritonij Vtinensis. | Omnia summo studio, & exquisito labore emendata. | [orn.] | PATAVII, apud Petrumpaulum Tozzium. 1616. | Ex typographeio Laurentij Pasquati.*

*Coll:* 4to:  $\pi^4$  a-d<sup>4</sup> e<sup>2</sup>; A-Z<sup>4</sup>; 2A-2Z<sup>4</sup>; 3A-3Z<sup>4</sup>; 4A-4P<sup>4</sup> 4Q<sup>2</sup> [\$2 (-e2, 4Q) signed; misprinting b2 as a2], 360 leaves, pp. [44] 1-614; [2] <sup>2</sup>1-60. 212mm × 147mm. Later vellum.

16世紀イタリアのナターレ・コンティ（Natalis Conti, Natalis Comes, Natale Conti）によってラテン語で編纂された神話大全。16世紀末に出版された数々の神話の手引書の中でも最もよく読まれ、ルネサンス期のヨーロッパの絵画や文学に大きな影響を与えた。近世イギリスにおいても例外ではなく、シェイクスピア、ジョンソン、チャップマン、ベーコン、スペンサー、ミルトンらの作品に広くその影響を見ることができる。本書は、神話に登場する神々や登場人物に関して、その系譜と一生について、そして物語の解釈について解説する2部構成からなっている。執筆にあたりコンティは、古典後期から中世に書かれた数多くのラテン語、ギリシャ語による神話集を材源としており、その中でも特に、ボッカチオの『異教の神々の系譜』を参考にしている。1551年ヴェネツィアでの初版より1669年のハノーヴァー版まで、フランス語訳とともに27もの版を重ねた。初期の再版では挿絵はなかったが、1616年を境に説明画が取り入れられるようになる。1616年パドヴァ版である本書もまた、多くの図像資料を含んでいる。（菅野磨美）

5. アレクサンダー・ロス 『詩的な秘儀伝授者』（ロンドン，1648年）  
 Ross, Alexander. *Mystagogus poeticus*, 2nd edn (London, 1648).

*MYSTAGOGVS POETICVS*, | OR | THE MUSES INTERPRETER: |  
*Explaining* | The historicall Mysteries, and mysti- | call Histories of  
 the ancient Greek | and Latine Poets. | Here *Apollo*'s Temple is again  
 opened, | [t]he *Muses* Treasurers the second time disco- | [v]ered, and  
 the Gardens of *Parnassus* disclosed more | fully, whence many flowers  
 of usefull, delightfull, | and rare Observations, never touched by any |  
 other *Mythologist*, are collected. | *The second Edition much enlarged.* |  
 [rule] | By ALEXANDER ROSS. | [rule] | *Et prodeße volunt, & delectare*  
*Poetæ.* | [rule] | LONDON, | Printed by *T.W.* for *Thomas Whitaker* at  
 the | Kings Arms in *Pauls* Church-yard. | M.DC.XLVIII.

*Coll.*: 8vo: A-Z<sup>8</sup>; 2A-2F<sup>8</sup> 2G<sup>2</sup> [\$4 (-B4) signed; misprinting A8 as B, 2C3 as C3, 2D1 as D1], 234 leaves, pp. [14], 1-2, <sup>2</sup>1-418, [34] [misprinting 3 as 1, 403 as 493], Plate [Front.]. 168×115 mm. Contemporary calf.

スコットランド生まれのアレクサンダー・ロス（1591-1654）は、イングランドに移住すると、はじめはグラマー・スクールの教師として、のちに国教会聖職者および文筆家として活躍した。サミュエル・バトラーが風刺詩『ヒューディブラス』において「アレクサンダー・ロスの著作をすべて読んだ…年老いた哲人」と揶揄したように、多岐にわたる分野で文筆活動を精力的に行った。伝統的なアリストテレス哲学に絶大の信頼を寄せたロスは、激しい批判の矛先をフランシス・ベーコン、コペルニクス、トマス・ホップズ、サー・ウォルター・ローリーなどに向けた。そのため保守的・反動的な性格が強調されてきたが、近年では彼の思想や著作の本格的な再評価が始まっている。

展示書はロスの晩年における著作で、ギリシャ・ローマ神話に独自の解釈を加えた事典である。巻頭には目次と異教の神々の系譜に関する解説が付され、それに続き、ギリシャ・ローマ神話における主要人物について、数行程度の紹介と詳細な解説がまとめられている。この解説には随所にキリスト教的寓意解釈が色濃くみられ、中世スコラ学擁護者としてのロスの姿勢を読み取ることができる。また各章はアルファベット順に（たとえばAで始まるものは第1章に）まとめられ、欄外注釈には典拠文献が記され（ただし網羅的ではない）、巻末には索引が付されている。初版は1647年に刊行され、その後1676年までに少なくとも8版まで再版を重ねた。展示書は1648年刊行の第2版（Wing R1965）で、この遊び紙にはBrewer教授が‘DSB 28 05 78’と鉛筆で記している。またBrewerコレクションには、Garland社から1976年に刊行されたこの第2版のファクシミリ・リプリントも収蔵されている。（徳永聡子）

6. ラクタンティウス『神的教理』（アントウエルペン，1570年）

Lactantius, Lucius Coelius Firmianus. *Divinarum institutionum libri VII*, ed. by Michael Thomas (Antwerp, 1570).

L. COELLI | LACTANTII | FIRMIANI DIVINA- | RVM  
 INSTITVTIONVM | LIBRI VII. | De ira Dei, lib. i. De opificio Dei,  
 lib. i. | Epitome in libros suos, liber acephalos. | *Carmina asscripta*  
*Lactantio*. | *Phœnix incerit auctoris*. | *Venantij Honorij Clemenitiani*  
*Fortunati presbyteri Ita-* | *lici ad Felicem Episcopum carmen de*  
*Pascha*. | *Incerti auctoris carmen de paßione*. | OMNIA | *Studio*  
 MICHAELIS THOMASII. | *emendata, cum Notis eiusdem*. | Græcarum  
 vocum Latina interpretation. | Index in Lactantium amplissimus. |  
 [printer's device] | ANTVERPIÆ, | Ex officina | Christophori Plantini,  
 | M. D. LXX.

Coll: 8vo: π<sup>8</sup> A-Z<sup>8</sup>; a-r<sup>8</sup> s<sup>4</sup> [\$5 (-S4) signed; misprinting E5 as E4, S5 as R5], 332 leaves, pp. [16] 1-560 [88] [misnumbering 156 as 160, 160 as 156]. 169×107mm. Modern cloth-backed bds.

本書の著者、アフリカ出身のラクタンティウス (c. 250-c. 325) は、コンスタンティヌス大帝に仕えたキリスト教の護教家で、北アフリカのヌミディア地方の小都市に異教徒の家庭に生まれた。ニコメディアの宮廷に修辞学教師として受け入れられた後、この地でキリスト教に改宗したが、ディオクレティアヌス帝のキリスト教迫害により職を失った。しかしコンスタンティヌス大帝から篤い信望を受け、大帝のキリスト教への改宗の背後にはラクタンティウスの影響を考える説もある。

『神的教理』は全七巻から成る護教書で、ラクタンティウスの主著とされる。彼の著作は、聖書を典拠とするよりも、キケロ、セネカ、ルクレティウスなど、古典ラテン語作品からの引用を多く含む。またその流暢な文体はキケロ風とも称される。このため教義神学的な内容の希薄さが指摘されるが、その一方で、異教徒にも理解しやすいかたちでのキリスト教弁護に努めたと評する見解もある。

展示書は、16世紀中葉のベルギーで、当時最大の印刷工房を営んだクリストフ・プランタンによる印刷本である。標題紙に付されたプランタンの印刷者標章には、モットー (LABORE ET CONSTANTIA) と円を描くコンパスが描かれ、軸足がしっかりとしていれば円を描き、距離を測る作業がうまくいくことが示されている。(徳永聡子)

7. ヘリット・フォス 『異教の神学とキリスト教自然科学』 /  
マイモニデス 『偶像崇拜の書』 (アムステルダム, 1668年)

Vossius, Gerardus Johannes. *De theologia gentili, et physiologia christiana*, 2nd edn (Amsterdam, 1668); Maimonides, Moses. *De idolatria liber*, ed.

by Dionyssius Vossius, 2nd edn (Amsterdam, 1668), 2 vols in 1.

*Vol. 1.1:* GERARDI IOANNIS VOSSII | DE | THEOLOGIA GENTILI, | ET | PHYSIOLOGIA CHRISTIANA: | sive | DE ORIGINE AC PROGRESSV | IDOLOLATRIÆ; | DEQVE NATVRÆ MIRANDIS, | quibus | HOMO ADDVCITVR AD DEVM; | LIBRI IX, | EDITIO NOVA: | Quorum IV Libri priores ab Auctore plurimùm aucti, Addendaque in calce | eorum suis locis inferta. Posteriores V Libri ex Auctoris autographo | nunc primùm prodeunt. | *Oeconomiam totius Operis exhibet pag. tertiæ proximè sequentis facies altera.* | *Cum Privilegio S. C. Maj. & Electoris Saxoniae ad Libros quinque posteriores.* | [printer's device] | AMSTERDAMI, | Apud IOANNEM BLAEV. | M.DC.LXVIII. | *Cum Privilegio Ordd. Hollandiæ Westfrisiciæque.*

*Vol. 1.2:* GERARDI IOANNIS VOSSII | DE | THEOLOGIA | GENTILI. | ET | PHYSIOLOGIA | CHRISTIANA, | TOMVS II. | Comprehendens Librum quartum; & quinque posteriores | qui ex Auctoris Autographo nunc primium prodeunt. | *Cum Privilegio S. C. Maj. & Electoris Saxoniae ad Libros quinque posteriores.* | [printer's device] | AMSTERDAMI, | Apud IOANNEM BLAEV. | M.DC.LXVIII. | *Cum Privilegio Ordd. Hollandiæ Westfrisiciæque.*

*Vol. 2:* R. MOSIS MAIMONIDÆ | DE | IDOLOLATRIA | LIBER, | cum interpretatione Latina, & Notis, | DIONYSII VOSSII. | [printer's device] | AMSTERDAMI, | Apud IOANNEM BLAEV. | M DC LXVIII.

*Coll:* Folio: *Vol.1:* \*<sup>8</sup> (-\*4) A–Z<sup>6</sup>; 2A–2Z<sup>6</sup>; 3A–3L<sup>6</sup> [\$4; misprinting 2A2 as A2]; *Vol. 2:* π<sup>2</sup> a–q<sup>6</sup>; 2A–2Z<sup>6</sup>; 3A–3C<sup>6</sup> 3D<sup>4</sup>; 2a–2f<sup>6</sup>, 2g<sup>8</sup> [\$4 (-3D4, +2g5)]

signed; misprinting 2A3 as A3], 631 leaves, pp. [i-xiv] 1-634 [635-79]; <sup>2</sup>[i-iv] 1-181 [182-92]; <sup>3</sup>1-305 [306-320]; <sup>4</sup>[1-2] 3-87 [misprinting 330 as 332, <sup>2</sup>150 as 140, <sup>2</sup>151 as 141], Plate [Front.]. 384×230mm. Cont. vellum prize binding.

ヘリット・フォス (Gerrit Janszoon Vos; Gerardus Johannes Vossius 1577-1649) はオランダ人の神学者、古典学者で、ルネサンス最後の偉大なヒューマニストとして知られ、ギリシャ・ラテン文学について多くの著述をのこした。ライデン大学教授の職にあったが、その寛容な神学観ゆえに急進的なカルヴィニストの同僚の不興を買い、アムステルダムに転職した。イングランドとの関係も深く、ロード大司教はフォスをカンタベリの聖堂参事会員に任命し、実現はしなかったがケンブリッジ大学最初の市民法の教授として迎えられるという話もあった。『異教の神学』は異教の神話と偶像崇拜を歴史的視点から論じた研究で、ギリシャ・ローマ神話のみならず、東洋、ゲルマン、ケルト、そしてアメリカの神話についても概観している。17世紀末までに8版を数え、18世紀にはギボンに現代の主要な歴史書として高く評価されただけでなく、ニュートンにも繰り返し活用されていた。『異教の神学』の後に続く『偶像崇拜の書』は、12世紀のユダヤ哲学者、マイモニデス (モーシェ・ベン=マイモン) がアラビア語で記したユダヤ法典『ミシュネー・トーラー』の偶像崇拜に関する箇所、息子の Dionysius Vossius (1612-1633) によるラテン語訳と注解である。本書は中世以来しばしばラテン語に翻訳されて、17世紀には護教文学の代表作として評価されていた。

(松田隆美)

## 8. 講演タイプ原稿

Brewer, D.S., typed. ‘The Fabulous History of Venus’  
(Sandars lecture typescript).

Brewer, Derek. ‘The Fabulous History of Venus: Studies in the History of Mythography from the Middle Ages to the Nineteenth Century’ [Sandars Lectures, 1990–91]. (Typescript, pp. 33–62).

296×210mm (A4-sized envelope).

Sandars Lectures はケンブリッジ大学が主催する書誌学関連の連続講演で、1895年より毎年開催されている。Brewer 教授は 1990/91 年度の本講座で英文学におけるヴィーナスの表象に関する講演をおこなったが、本コレクションにはその 3 回目と 4 回目の講演のワープロ原稿が含まれている。原稿には随所に手書きの書き込みが見られ、また使用したスライドの手書きのリストも付随している。この講演は未刊行だが、Brewer 教授は同時期に、‘Chaucer’s Venuses’ (*A Wyf Ther Was: Essays in Honour of Paule Mertens-Fonck*, ed. by Juliette Dor [Liège: Departement d’anglais, Université de Liège, 1992], pp. 30–40) と題して、関連する内容の小論を発表している。 (松田隆美)

9. トマス・ムンカー編『ラテン神話作家』（アムステルダム、1681年）  
Munckerus, Thomas, ed., *Mythographi latini*, 2 vols in 1  
(Amsterdam, 1681).

*Vol. 1, Title, \*3<sup>r</sup>: MYTHOGRAPHI | LATINI. | C. JUL. HYGINUS. | FAB. PLANCIADES FULGENTIUS. | LACTANTIUS PLACIDUS. | ALBRICUS PHILOSOPHUS. | Thomas Munckerus omnes ex libris MSS. |*

partim, partim conjecturis verisimilibus emen- | davit, & commentariis  
perpetuis, qui | instar bibliothecæ historiæ fabula- | ris esse possint,  
instruxit. | *Præmissa est dissertatio de auctore, stylo, & | ætate Mythologiæ,*  
*quæ C. Jul. Hygini | Aug. Liberti nomen præfert.* | [orn.] AMSTELODAMI  
| Ex Officina viduæ JOANNIS à SOMEREN | A.C. CIÐ IÐC LXXXI.

*Vol. 2, Title, [\*1]<sup>f</sup>: MYTHOGRAPHORUM | LATINORUM | Tomus Alter,*  
| *Complectens | FABII PLANCIADIS FULGENTII | Mythologias,*  
*Continetiam Virgilianam, | & libellum de Prisco Sermonem; | LACTANTII*  
*PLACIDI | Argumenta Metamorphoseôn Naso- | nianarum; | ALBRICI*  
*PHILOSOPHI | Commentariolum de Imaginibus | Deorum.* | [orn.] |  
AMSTELODAMI | Ex Officina viduæ JOANNIS à SOMEREN | A.C. CIÐ IÐC  
LXXXI.

*Coll:* 8vo: \*<sup>8</sup>-3\*<sup>8</sup> 4\*<sup>4</sup>; A-Z<sup>8</sup>; 2A-2L<sup>8</sup> 2M<sup>2</sup> [\$5 (-3\*5; -4\*4, 5) signed]; <sup>2</sup>  
\*-2\*<sup>8</sup>; A-Y<sup>8</sup> Z<sup>2</sup> [\$5 signed], 496 leaves, pp. [56] 1-487 [488-548]  
[misprinting 188 as 18]; <sup>2</sup>[32] 1-330 [331-56]. 198×113mm. Cont. calf,  
gilt.

本書は17世紀に編纂されたもっとも重要な神話書のひとつであり、その初版である。収録されているテキストはいずれも中世におけるギリシャ・ローマ神話受容の伝統を形成する重要な神話書であり、Gaius Julius Hyginus (c. 64 BC-17) が編纂した初歩的な内容のギリシャ神話集 *Fabulae* と星座論『詩的な天文学』(*Poeticon Astronomicum*)、神話のキリスト教寓話化の伝統を確立した6世紀のフルゲンティウスの『神話学』(*Mitologiae*) と小論2編、チョーサーも「騎士の話」などで活用した12世紀のロンドンのアルベリクス (Alberic of London, 別名 ‘The Third Vatican Mythographer’) の『神々の像について』(*De deorum imaginibus*),

5世紀のLactantius Placidusによるオウィディウス『変身物語』の散文要約 *Argumenta Metamorphoses Ovidii* の校訂版からなる。古典学者のThomas Muncker (1640-1681) は新たな写本および初期刊本を用いてこれらのテキストを校訂し詳しい註をつけたが、その学術的価値は高く18世紀末まで何度か版を重ねている。ヒュギヌスの『詩的な天文学』は40点以上の星座の木版画で飾られているが、それらは、紀元前3世紀のギリシャの詩人アラトスが星座や天体を扱った『現象論』(*Phaenomena*)の1600年の版に用いられたもので、その美しさには定評がある。‘D S Brewer May 1953’ という署名があり、Brewer教授の神話学関連書のなかでも初期に購入された一冊と思われる。(松田隆美)

#### 10. フランチェスコ・バルディ

『歴史的、政治的、道徳的オウィディウス』(ヴェネチア, 1696年)  
Bardi, Francesco. *Ovidio storico, politico, morale* (Venice, 1696).

OVIDIO | ISTORICO, POLITICO, MORALE | Breuemente spiegato, e dilineato con | artificiose figure, | *Accresciuta questa quinta Impressione di nuoue* | *Allegorie*. | CONSAGRATO | *Al Celebre Pittore Patrone mio Collendissimo* | GIVSEPPE NASINI. | [orn.] | IN VENETIA, M.DC.XCVI. | [rule] | Presso Girolamo Albrizzi. | *CON LICENZA DE 'SVPERIORI*.

*Coll:* 8vo: A-E<sup>8</sup> [\$4 signed], 40 leaves, pp. [1-4] 5 [6] 7-8 [9] 10-75 [76] 77-79 [1] [misprinting 30 as 20, 35 as 33, 50 as 69, 60 as 90]. 166×110 mm. Old bds.

*Ovidio storico, politico, morale* はオウィディウスの著述を絵と文章を用いて寓意的に呈示したものであり、展示書はGirolamo Albrizziが1696年にヴェネチアで印行した。本書はエンブレム・ブックのように『変身物

語』の場面を描いた木版画と、寓話、寓意を解説したイタリア語本文とから構成されている。Albrizzi は、Giolito de Ferrari が Lodovico Dolce の *Le trasformationi* の印刷（1553 年、58 年、61 年）に使用した版木を再利用している。オウィディウスを寓意的に読む伝統は古くから存在した。中世には異教的な表層の下に隠された真実を見出すことによって『変身物語』などをキリスト教の文脈で寓意的に解釈しようとしたのである。Pierre Bersuire（1290–1362）が書いた *Ovidius moralizatus*（c. 1340）や、フランス語韻文の *Ovide moralisé* はそうした古代神話の受容の代表例で、前者はチョーサー「騎士の物語」でも利用されたと言われている。*Ovide moralisé* はキャクストンによって散文版から翻訳され（ただし現存する印刷本なし）、また Colard Mansion による印刷本（ブルージュ、1484 年）にはマルスなどを描いた木版画も付されている。（小川真理）

\*\*\*\*\*

## 注

- 1) 本稿は、慶應義塾大学日吉メディアセンターにおいて、2009 年 11 月 24 日（火）～28 日（土）に開催した貴重書展の解題目録の再録である。
- 2) 本目録の書誌記述では、標題紙の転写において略字（abbreviation）は完全な形に開き、書体とスペーシングを統一した。

*Synopsis*

## An Exhibition Catalogue of D.S. Brewer Mythography Collection

Satoko Tokunaga, Takami Matsuda,  
Toshiyuki Takamiya, Mari Ogawa, Mami Kanno

This paper is a reprint of the catalogue prepared for the exhibition ‘D. S. Brewer Mythography Collection’, held at the Hiyoshi Media Centre from 24–28 November 2009 on the occasion of the 25th congress of the Japan Society for Medieval English Studies. In the spring of 2009 Toshiyuki Takamiya, Professor Emeritus at Keio University, donated the D. S. Brewer Mythography Collection to the Keio University Library. This collection was formed by the late Derek Stanley Brewer (1923–2008), a leading expert on Geoffrey Chaucer, the founder of academic publisher D. S. Brewer (now Boydell & Brewer); Brewer also served as Master of the Emmanuel College from 1977–1990. The Mythography Collection comprises 190 items, including 16th–20th-century books mostly on Greek mythology and Brewer’s typescripts of lectures, research notes and slides. Scholars and students from the Department of English examined the whole collection and recorded it bibliographically during the summer of 2009. On the basis of their research results, 10 representative items were chosen and displayed at the exhibition. They include Boccaccio’s *Genealogie* (Paris, 1511); Pse-Apollodorus’s *Bibliotheca* (Rome, 1555); Vincenzo Cartari’s *Les images de dieux des anciens* (Lyons, 1581); Natalis Conti’s *Mythologiae* (Padua,

1616); Alexander Ross's *Mystagogus poeticus* (London, 1648); Lactantius's *Divinarum institutionum libri VII* (Antwerp, 1570); Gerardus Vossius's *De theologia gentili...* (Amsterdam, 1668); Thomas Munckerus's (ed.) *Mythographi latini* (Amsterdam, 1681); Francesco Bardi's *Ovidio istorico, politico, morale* (Venice, 1696); and D. S. Brewer's typescript.